

支 部 だ よ り

◎東北支部

(1) 第2回商議員会(48.8.20, 支部事務局)出席者:鈴木支部長,ほか30名。議題:1)昭和49年度海岸工学講演会開催について。2)賛助会員増強の中間報告。3)支部事務局の移転について。4)支部長・幹事長会議について。5)昭和48年度行事について。

(2) 第3回昼食会(48.9.11, クローバー)出席者:鈴木支部長,ほか18名。講演:パイプラインことにその施工について/原田東北学院大学教授。事務局報告:1)賛助会員増強中間報告。2)49年度海岸工学講演会開催について。3)支部長・幹事長会議について。4)48年度行事について。5)支部事務局の移転について

(3) 映画会(48.9.13, 日立ファミリーセンター)

上映映画:①松原下釜ダム建設記録, ②土石流, ③名古屋港金城埠頭建設記録, ④山陽新幹線, ⑤原子力時代への

道

参加者:80名
(4) 学生見学会(秋田大学, 48.9.29)

見学先:国道46号線改良工事仙岩峠
参加者:50名

(5) 学生見学会(東北大学, 48.9.29)

見学先:東北新幹線蔵王トンネル工事
参加者:50名

(6) 学生見学会(東北学院大学, 48.10.1~3)

見学先:東京都内大林組技術研究所, 中央高速道路笹子トンネル, 営団地下鉄飯田橋, 小松川下水ポンプ場, 帝都高速地下鉄沈埋工事, 横浜市成瀬宅地造成工事, 横浜駅西口工事

参加者:60名
(7) 第4回昼食会(48.10.11クローバー)出席者:鈴木支部長,ほか19名。

講演:東北新幹線建設の現況/国鉄仙台新幹線工事局長 西田正之。事務局報告:1)賛助会員増強中間報告。2)支部長・幹事長会議の報告。3)年間行事について。4)支部事務局移転決定報告。5)その他。

◎関西支部

(1) 総務会計担当幹事会(第2回)(48.7.23, 土木学会関西支部)出席者:室田幹事長,ほか10名。

(2) 企画担当幹事会(第1回)(48.7.18, 土木学会関西支部)出席者:室田幹事長,ほか9名。

(3) 編集担当幹事会(第2回)(48.8.10, 土木学会関西支部)出席者:松尾支部長,室田幹事長,ほか5名。

(4) プール制度運営担当打合せ(第1回)(48.8.2, 大阪大学)出席者:室田幹事長, 大家幹事。

(5) 出版物編集担当打合せ(第1回)(48.8.10, 土木学会関西支部)出席者:松尾支部長, 室田幹事長, ほか8名。

(6) 橋りょう下部構造診断委員会第1・2小委員会(第4回)(48.7.27, 京阪宇治川橋梁現地測定および京阪宇治保養所)出席者:後藤委員長, ほか19名。

(7) 橋りょう下部構造診断委員会第3小委員会(第5回)(48.8.1, 土木学会関西支部)出席者:関係者9名。

——上田勝基・記

編 集
後 記

秋も日一日深さを増し, 草むらですだく虫の音も徐々にさみしくなって, 自然はすでに冬ごもりへの下準備を着々整えてきているようです。昔前, この時期は“実りの秋”として収穫と来期への準備という労働から休息への転換期であったのでしょう。しかし, いつのまにかオールシーズンの労働を余儀なくされ, とくに建設業では農閑期の労働力がなくなるとは工事の消化が考えられない時勢となっています。

とくに列島改造論や国総法などによって福祉政策を基調とした諸施策が強く叫ばれてくると, 多大の労働力が必要となるにもかかわらず, 現今のように労働力の質的量的な低下は工事の消化に著しい障害となっています。

× × ×
会誌編集委員会では, このような状況下で建設業とそれをとりまく関連産業がどのような対処をしているか, が問題となっていました。また, 現在土木学会員のうち約27%を占める建設業関係者の声をなんらかの形でまとめる必要のあ

ることも話題になりました。

× × ×

このような話とあい前後して年間発行される学会誌13冊(各月とアニュアル)のうち何冊かを現場作業従事者の直接の声や話題で特集しようという企画案が提案されました。それまでも「請負制度を考える」など建設業の持つ側面を特集したものがありますが, もう少し深部へという希望を持ったからです。

上記の提案に対して委員会では数度にわたって検討し, 小笹, 安, 中島と私の建設業関係者に一任するという形で11月号の編集にあたるよう下命されました。

× × ×

当初から労働力問題については各担当委員とも現場の声をかなり強く意識していた関係上, 比較的抵抗感もなく「労働力と省力化」に特集のテーマを選定しましたが, 委員会ではこの種の問題は建設業自体で解決すべきもので, 学会誌に取り上げる内容のものでないという意見もありました。

しかし, 大方の了解をえて編集方針, 内容, 執筆依頼という作業に入ると種々の問題が発生し, このため打合せが終電直前ということもありました。

× × ×

とくに「労働力」は建設業各社とも頭痛の種であるにもかかわらず定量的な把握が十分なされていないようであり, 一方「省力化」という面では, ノウハウ的な問題にも波及することになるだけに, どの程度突込んだ特集となるか危惧の念をいだいておりました。さらに建設業に従事する人々は大学や諸官庁執筆者のように文章表現に熟達した方が少なく, 各号にみられるような秀麗で内容のある論文になりうるかも心配でした。

× × ×

幸い執筆各位のご努力と編集担当事務局員らの補佐によってそれなりの体裁が整い厚く御礼申し上げる次第です。内容的にはさらに危機感のあるものにしたかったと思わせる節もありますが, 反面この特集によって官民一致してこの種の問題を解決する糸口にでもなれば本望です。

× × ×

最後になりましたが, 第5章執筆の瀧山養氏が今回国鉄技師長の要職につかれました。数千kmに及ぶ新幹線網を始め国鉄への国民の期待もまた一入の時期となっております。ご自愛, ご健闘をあらためてお願いする次第です。